

「苦潮世」への の旅路

奄美近現代の出稼ぎ・移民考②

大阪労働学校アソシエ 2024・9・21



第1回 近代日本一売られゆく貧者の群れ 5/25



COALING TO STEAMER SHIP NAGASAKI HARBOUR. 明治30年代の島原半島

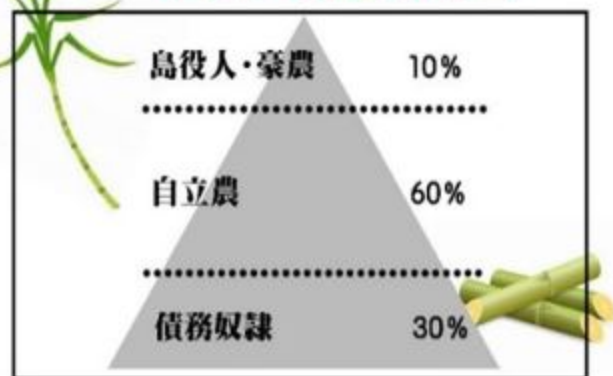
カラユキさん
とヨーロン人

明治30年代、島原半島口之津港は外国船の石炭積み出し港として殷賑を極めていた。その船底には密輸される天草・島原の少女たちが積荷されていた。同時に「ヤンチョイ」と呼ばれる荷役作業には与論島から集団移住した最下層の農民が動員されていた。貧困ゆえに絶望的な運命を担わされた両者。2回目はその貧困の歴史的背景を考える。

review

第2回 「砂糖の島」の歴史と貧窮 7/27

薩摩藩政下の身分構造



※西郷隆盛は1859(安政6)年、奄美大島龍郷村に蟄居を命じられるが、島における苛政を盟友大久保利通にあてた手紙で「島の体、誠に忍び難き次第に候。松前捌きより甚だしきに候」とアイヌ以上の苛政だと怒っている。

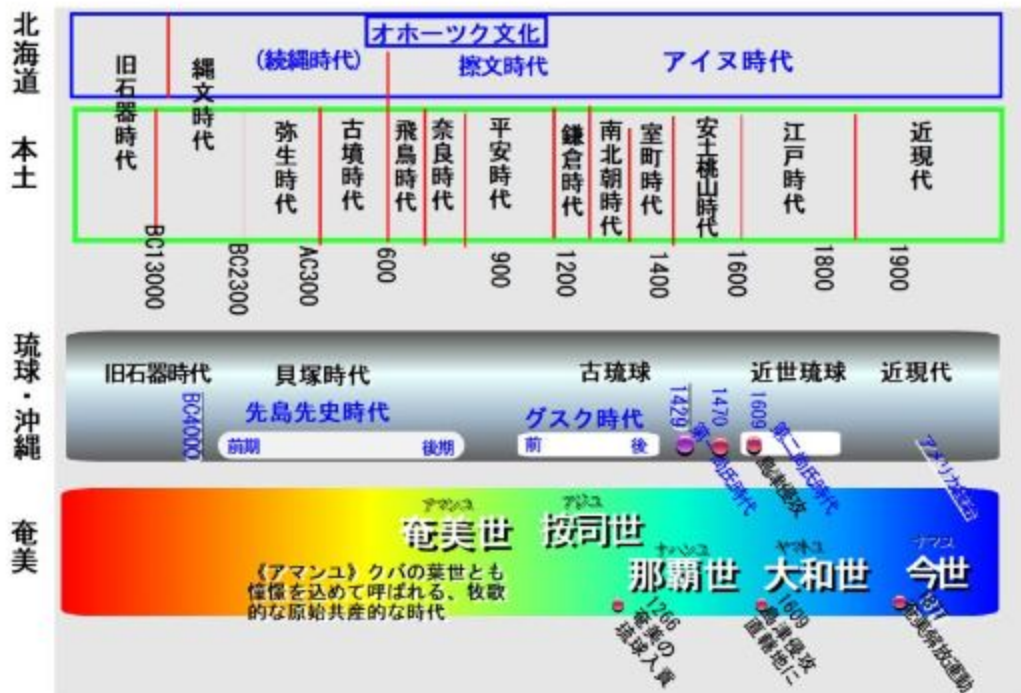
薩摩藩が強制した黒糖生産は、唯一の換金作物として長く奄美社会を規定した。

米に代わる換糖上納で島土が疲弊し、旱魃・害虫被害・悪疫が続き、「ガーシヌ(餓死)世」を招いた。1755(宝暦5)年の大飢饉では、徳之島で餓死者3,000人 (『徳之島前録帳』)の惨劇に。しかし薩藩はむしろ収奪を強化、宝暦12年の奄美大島の租税率は73%に。

この結果、徳之島では藩内唯一の母間騒動(1816)、犬田布騒動(1864)の一揆を誘発。重税で農民の逃散、豪農への身売りによる債務奴隷(ヤンチュ=家人)化が進み、全人口の約3割にも達した。

奄美の歴史

(安里進ほか作図を参照)



海洋民族の
牧歌的な
精神気風を
継いで...



南北両大国の侵攻

- ◆ 琉球国 1266東北(奄美)勢力が英祖に入貢▷1466尚徳、喜界島遠征▷1537与湾大親、謀反。尚清が王府軍を派遣。
- ◆ 島津氏 1609島津軍、奄美を占領し琉球へ、首里城占拠。講和成立。家康、義弘に琉球領地の黒印状。
- 地政学上の悲運—ウクライナの今日的状況

奄美
近世以降の主な歩み

1609	島津氏の琉球侵攻	奄美諸島は直轄領
1695		黍検者の配置。サトウキビ栽培本格化
1745		換糖上納令
1754	薩摩藩木曾川改修(宝暦治水)	(1755)徳之島で凶作、餓死者3,000人
1777		奄美3島に砂糖惣買入制(専売制)
1815		徳之島で疱瘡流行、死者1,891人
1816	藩財政悪化・負債500万両	母間騒動(首謀者ら遠島)
1820		大島で凶作 上納糖不足で身売多数
1827	調所広郷の天保改革	三島の砂糖専売制(惣買入制)
1862		犬田布騒動
1868	明治改元	
1871	鹿藩置県、鹿児島県に	膝素立(奴隷)解放令
1873	政府、砂糖専売制を解除	奄美の砂糖勝手売買の布達に県は傀儡商社で対抗し専売継続
1877	西南戦争	丸田南里主導の自由売買運動起こる。歎願団55人が上鹿
1879	琉球処分、沖縄県設置	(明治11年)奄美の砂糖自由化成る
1894	日清戦争⇒M37日露戦争	奄美の負債増大と裁判闘争
1914	第一次大戦…戦争景気と戦後恐慌	糖価暴落⇒(大正末)ソテツ地獄※4 関西中心に出稼ぎラッシュ
1931~	満州事変…15年戦争	
1945	敗戦	沖縄で地上戦、死者20万人。奄美も戦禍
1946	北緯30度以南の日本分離	沖縄・奄美、米軍統治下に…密航時代
1953	奄美の日本復帰	沖縄での奄美人差別問題化
1972	沖縄の日本復帰	

(『名瀬市誌』『苦い砂糖』など参照)

豪農経営 の破綻



瀬戸内町篠川の旧家・芝家は琉球王妃を救った功で大屋職から、薩摩藩政下でも郷士格に。宝暦から天明にかけ砂糖20万斤を献上。しかし天明期に名字付与を願い出たが、賄賂攻勢に関わらず、「芝」の一字姓に。幕末には没落、壮大な墓地だけを残している。

■薩摩藩は各島に代官所を配備し島政を監理した。同時に貢租・増徴の徹底を期すため、人口の1割もを「島役」に登用。やがて彼らが特権化し、豪農と共に富裕化、島の支配層を形成した。

■島役は与人(村長に該当)を筆頭にキビの生育状況を指導監督する末端の黍見廻までを配備。津口横目が抜荷監視に当たるなど島人による島人監視網が巡らされ、その報酬、上匡与人の費用一切が百姓負担だった。

■特権層は藩の財政難への用立てや寄進で役得を維持し、「郷士格」に登用される例が幕末に増加。実際は「島民皆平百姓」の規定内ながら、大型寄進を連発する豪農には一字名字を許し、彼らの権勢で統治を強化した。

■しかし、明治維新で労働力源と収入減に直面すると、旧態の豪農経営が破綻。農民の自由化闘争で島内の混乱が続いた。

名瀬の革命児・丸田南里の帰島

明治8年、燃え盛る反封建闘争

「人民が作る所の物産は其の好む所に売り又人民が要する品物は其の欲する所に購入すべきは之自然の条理なり。何ぞ鹿児島商人一手の下に束縛を受くるの理あらんや」



まるた・なんり(1851~87)。名瀬出身。14歳時に長崎の貿易商グラバーに伴われ、上海、イギリスを見聞。1875年に帰郷し、旧態とした奄美の政治に憤慨、投獄を体験しながら自由化闘争を牽引した。

■「全島沸騰」と史書が記す奄美の反封建闘争
「勝手(自由)世騒動」
は、砂糖の自由売買要求に留まらず、農奴解放とも連動。南里主導の砂糖自由化闘争では県庁へ歎願団55人を送り出したが、折からの西南戦争で投獄。うち徴募された6人が八代で戦死、残りも帰島中に船が座礁、帰任したのはわずかだった。

ヤンチュの行方

■一方、奄美特有のヤンチュ制度は、解放運動を経て徐々に崩壊過程に入るが、身代糖を自弁し独立した者は少数で、なお主家との雇用・小作を継続する者が少なくなかった。また農地解放でジブンチュ(自立農)になりながら、再び借財で小作農化した赤貧者が明治20年=1,968人、大正8年=5,932人記録されており、自立に遠い元ヤンチュの実態を浮き彫りにしている。



第1図 名越左源太『南島雑話』の水平三転子一列配置型任搾機

砂糖づくりは労働集約型産業であるため、ヤンチュを派生させる背景にも。

自立の途なお遠く 新たな赤貧層も...

大正14年多額納税者※当時の一世帯平均負担額は約30円
「奄美大島新聞」による

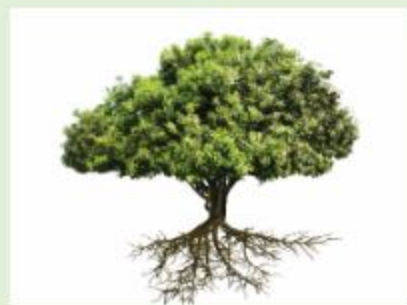
糸 重徳	伊仙	6,096円
平 正之	伊仙	2,998円
蘇 嘉太郎	瀬戸内	2,581円
緒方辰次郎	名瀬	2,221円
林 為良	東天城	2,008円

自由化の暗転…債務地獄に

島民の闘争で西南戦争後、独占傀儡商社が崩壊(1873年)、自由化が成るが明治20年代にかけ、全国から糖商が殺到、青田買い競争で島民の多くが借金漬けに。利子を合わせ計514万斤と年間産糖量の2倍に達する絶望的負債を抱え込んだ。いぜん主勢力の鹿児島商人への忌避運動や金利減免の裁判闘争が展開されたが、島内の混乱は深刻化、再び貧窮が島を覆いだす。



絶望的な奄美の窮状...
マスコミでも報道



1878(明治11)年9月

朝野新聞 「建物打毀、人畜を傷つけ...」
東京さきがけ 連載記事



明治21年、民権派新聞による告発

「勝手騒動」から10年…再び奄美の惨状が俎上に…

「君知るや、東洋のアイランドとは何処なりや」

※大阪が「東洋のマンチェスター」と呼ばれ出したことへの対比



中江兆民

(1847-1901)土佐藩生まれ。自由民権運動の指導者。ルソーの「社会契約論」を紹介、「東洋のルソー」と呼ばれた。保安条例で東京を追われると大阪で東雲新聞の主筆になり、被差別部落解放にも尽力した。



新納中三の活躍

1886 勝手売買実現後の県傀儡商社と島民の3年越し紛争

1886・10

- 新納中三の大島島司赴任
- 新納、上京し松方正義大蔵卿から勸業資金10万円の政府出資獲得
- 新納、大阪で阿部組・阿部彦太郎に奄美進出の了承得る。
- 1887・1 帰任中に渡辺千秋知事から罷免

大島糖業事件

島民の日常生活は次第に窮乏を告ぐるに至り、まさに飢餓の縁に迫らんとする状況にある。その有様は実に目これを見るに忍びざるの程の事に至り居れる。

…近頃、大島郡を称するに東洋のアイランドを以てするものあり。



「東雲新聞」1888年11月9日から7日間連載

開明派薩藩官僚・新納中三の奮迅

にいろう・ちゅうぞう（1832-89年）薩摩藩家老・新納久仰の子。島津氏の譜代重臣。島津斉彬・茂久の2代に仕え、薩英戦争で兵制改革の実績を発揮。慶応元年（1865年）には藩大目付に昇進。維新後は七等判事、大島島司。

「若き薩摩の群像」率い渡英の成果...

1865(慶應元年)、薩摩藩が派遣した薩摩藩遣英使節団団長として五代友厚らと渡英。視察の傍ら紡績機械等の買い付けに当たり、マンチェスターも見聞。帰藩後、日本最初の紡績所を吉野村に開設。後に大阪・堺に進出、始祖3紡績の一つになった。

「東洋のマンチェスター」紡績機械化に貢献

↓ 鹿児島閥の反発・突然の解任劇

「東洋のアイランド」奄美救済に奔走し憤死



アイランド問題—喉にささった骨

アイランドの歴史

青文字:おもなイギリスの政策 赤文字:おもなアイランドの状況

5世紀	聖パトリックのキリスト教布教
12世紀	ヘンリ2世(英)のアイランド侵攻
1649	クロムウェル(英)の征服→p.145
1691	ウィリアム3世(英)による制圧
1798	ユナイテッド=アイリッシュメンの蜂起
1801	英、アイランドと国家合同 →連合王国成立→p.145
1828	審査法廃止
1829	カトリック教徒解放法成立 (オコンネルらの尽力)
1830年代	アイランド人の小作人化進む
1845 ~49	ジャガイモ飢饉 →人口の約25%に達する死者と難民が生じる。難民の多くはアメリカ合衆国へ移民→p.201
1848	青年アイランド党の武装蜂起
1850年代	3F運動がおこなわれる
1870	アイランド土地法成立→アイランド人の小作権保障
1880	ボイコット事件(領地管理人ボイコット大尉排撃、boycottの語源)

1881	アイランド土地法改定 →アイランド人の土地購入権認可
1885	アイランド土地法改定
1886	アイランド自治法案否決
19世紀末	アイランド国民党成立
1905	シン=フェイン党結成
1914	アイランド自治法成立 (アスキス内閣) →第一次世界大戦を理由に実施延期
1916	イースター蜂起 シン=フェイン党がその後、独立への動きを主導
1922	アイランド自由国成立
1937	エールに改称(英連邦内独立国)
1949	アイランド成立(英連邦離脱)
1968~	IRA(アイランド共和軍)のテロ活動活発化 (94年停止宣言)
1998	北アイランド和平合意



アイランドとは

中江兆民・新納中三の見聞した

大国の侵略、支配…植民地化への反抗と飢饉

- ★BC7500年ごろから人類居住。アイランド語(ゲール語)が固有語。
- ★1169年、イングランド王が進攻、植民地化へ遠征が繰り返される。
- ★1798年の反乱鎮圧後、植民地化完成。1801年に連合王国の構成国として、完全に英国に併合。経済・貿易の中心がロンドンへ移行し経済停滞。
- ★1840年代にはジャガイモ飢饉。飢饉や移民で人口800万人が1911年に440万人に。
- ★第一次大戦後の1922年アイランド独立戦争。アイランド自由国を建国。

ジャガイモ飢饉(1840～)

100万人超す
餓死・病死者...
長引いた飢饉の惨状



▶アイルランドでは16世紀にジャガイモが持ち込まれて以来、主要食料源に。人口が爆発的に増加▶だが1845年からジャガイモ疫病が大流行し飢饉に。大半の農地を占有するイギリス人地主は、餓死者が発生しても輸出を継続(飢餓輸出)▶イギリス政府は土地をもたない住民に限って救済へ。そのために農地と家を売り払う農家が続出、飢餓が長期化▶800万人の人口中、100万人が餓死・病死し、200万人が北米などへ移住しといわれている。



植民地アイルランドへ
世界的な関心・同情

独立運動の旗手に称賛...オコンネル、パーネル

オコンネルは1843年、アイルランド独自の議会を開設すべく大衆運動を展開。大量の大衆を動員、「怪物集会」と言われた。しかし政府は集会を禁止。あくまで合法的に運動を進めようとしたオコンネルが、政府の命令に従ったことで大衆は失望、実力で独立を勝ち取ろうという運動が主流に。オコンネルは1847年に失意のうちに亡くなった。



パーネルはオコンネルに継ぐ世代の政界の主役で、その影響力から「アイルランドの無冠の帝王」と称された。1880自治年に国民党党首。自治獲得とともに、土地改革を重視。党内の過激派から逮捕者が相次いたが、国土法成立に漕ぎつけ、カトリック小作農にも土地が与えられることになった。

東海散士の政治小説
「佳人之奇遇」

初編は1885（明治18）年刊行。アイルランドの美女とのめぐり逢いなどから世界史的な舞台展開に。小国の大国依存では、民族解放が果たせず、小国同士の連携を訴える内容。

アイルランドに擬した 奄美の黒糖地獄



- 1888(明治21)年、兆民の告発記事
- 国会開設運動の本格化
- 1890年、第一回衆議院総選挙

鹿児島新聞 「語を大島郡民に寄す」

今や国会開設の期切迫したるを以て、人民が参政の権を得るもまた遠きに非ず。大島郡民は卿等を代表する一議員を選挙するべからず。大島郡中には『オーコンネル』『パーネル』等の人傑ありや、否や。

同志会・厚地政敏
が立候補模索



奄美の守旧派・基俊良
が出馬当選

民権の理念裏切る結果(第2回から吏党VS民党)

世界経済を変えた イギリス産業革命



世界に先駆けてイギリスで
始まった産業革命は、
経済や社会のしくみを
大きく変えてゆく。

農民流浪の 受け皿に...

囲い込みで農地を奪われたイギリス農民と、飢饉が長引いたアイルランド農民は、農業を棄て、産業革命に湧く都市の労働者になった。その豊富な労働力が、繊維などの産業を発展させた。

イギリス産業革命の要因

18世紀後半のイギリスには、産業革命が起るのに必要な条件がそろっていた。

産業革命後(1870年ごろ)

- 炭田
- 鉄の採掘・製錬
- 鉄道
- おもな都市



ロケット号
スティーヴンソン(1781～1848年)が1825年に製作した蒸気機関車。リヴァプールとマンチェスターを結ぶ鉄道で使われた。

市場の拡大
北米やインドなどに植民地を得ることで、広大な市場が形成されていた。

資本の蓄積
マニファクチュアの発達や、大西洋の三角貿易をはじめとする国際商業の発達により、資本が蓄積されていた。

豊富な労働力
農村での囲い込み(第2次)により土地や仕事を失った農民が、新たな工業労働者となった。

豊富な資源
石炭や鉄鉱石など、工業の原料や燃料となる地下資源が豊富にあった。

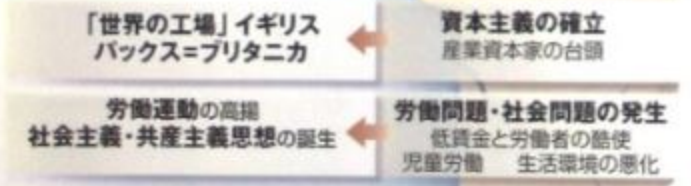
経済活動の自由
2度の革命(ピューリタン革命と名譽革命)をへて、中世的な商業特権やキルドがなくなった。

自然科学の発達
ニュートン力学に代表される近代科学・思想の発達が、技術革新の下地となった。

産業革命 3つの革命

- 技術** 紡績機の発明
飛び織(リ)や力織機が登場。
- 動力** 蒸気機関の発明・改良
水力から蒸気機関へ転換。
- 交通** 鉄道の発達
蒸気機関車や汽船が登場。

イギリス産業革命の展開と影響



産業革命の波及
フランス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本など



**マンチェスター繁栄の裏で
アイルランド移民
5万人もが悲惨な
地下室生活**

アーウェル川の丘陵地マンチェスターは工場街を囲んで労働者街があり、その長屋には公衆便所が少なく悪臭に満ちていた。中かでもアイルランド移民4~5万人の多くは地下室しか宛がえられず、汚物の中で暮らし、伝染病の温床にもなり、他の労働者から嫌悪されていた(資本主義の矛盾暴いた独エンゲルスの観察)



豚との寝起き

アイルランド移民は母国の生活文化を持ち込み、部屋に豚を入れて生活を一緒にし不潔の代名詞になったが、その根本原因は植民地化そのものにあった。

奄美出稼ぎ者との共通性を考える

アイルランド農民と奄美島民の類似性

- ① 大国からの搾取・支配
- ② 繰り返される災害、飢饉
- ③ 自活力なく大都市流出



- A) 選べない隣人
農民撫育の藩・名字帯刀
- B) 異文化への差別
- C) 島内の二重権力構造

飢餓から貧窮への連鎖

《次回第三回》 海を越えた奄美島民

